【4-7　評価シート　エビデンス総体】

診療ガイドライン	外科療法
対象	乳房温存術　非浸潤癌に対する
介入	断端陽性
対照	断端陰性

エビデンスの強さはRCTは"強（A）"からスタート、観察研究は弱（C）からスタート
* 各ドメインは"高（-2）"、"中/疑い（-1）"、"低（0）"の3段階
** エビデンスの強さは"強（A）"、"中（B）"、"弱（C）"、"非常に弱（D）"の4段階
*** 重要性はアウトカムの重要性（1～9）

エビデンス総体

								リスク人数（アウトカム率）											
アウトカム	**研究デザイン/研究数**	**バイアスリスク***	**非一貫性***	**不精確***	**非直接性***	**その他(出版バイアスなど)***	**上昇要因(観察研究)***	**対照群分母**	**対照群分子**	**(%)**	**介入群分母**	**介入群分子**	**(%)**	**効果指標(種類)**	**効果指標統合値**	**信頼区間**	**エビデンスの強さ****	**重要性*****	**コメント**
乳癌死の減少	0							NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA			DCISでは乳癌死につながるまでには観察期間が長期となるため検討無し
局所再発率の減少	20	-1	-1	0	-2	0	+2	1533	x	x	6350	x	x	OR	0.53	95%CI: 0.45-0.62	弱(C)		断端陰性は陽性に比べてオッズ比0.53と再発リスク低下がみられる。
整容性低下	0																		追加切除の整容性低下は明らか
コスト	0																		手術のコストによるデメリット

コメント（該当するセルに記入）

局所再発率の減少		断端陽性基準の不統一さ	CQと今回のSRとに相違があるこ		Outcome異なる		数が多い											